地球にやさしい最前線⑦

新築戸建住宅でZEH率74%達成「グリーンファースト ゼロ」を加速

積水ハウス

「2万8195棟」でトップ

積水ハウス（本社・大阪市北区。阿部俊則社長）は、2016年度のZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の販売実績で74%を達成、同分野で圧倒的な強さを誇る同社の〝底力〟を改めて見せつけている。

当初目標だった72%を超える成績で、2013年1らのZEH累積販売棟数は、2017年3月末現在で2万8195棟。もちろん業界ナンバーワンの実績だ。

ZEHとは、省エネ（CO2削減）重視から一歩踏み込み、消費した以上のエネルギーを自ら創出する「創エネ住宅」のこと。政府も、2020年までにこれを標準的な新築住宅にすると意気込む。

一方、同社は2009年からCO2排出量を半減（1990年比）するコンセプト、「グリーンファースト」を盛り込んだ住宅を積極的に販売し続けており、2012年度にその比率は販売全体の83%に達していた。

そこで今回同社はこれをパワーアップ、新たにZEHに準拠した「グリーンファースト ゼロ」の販売を2013年にスタート、始年度からいきなり同49%（北海道を除く）を叩き出すほどの好調ぶりだ。そして今回、2016年度の新築住宅販売実績で、ZEH比率を74%にまでアップさせたわけである。

内と外が心地よくつながる大開口のリビングでも快適な暮らしとZEHを実現

庭と一体となり自然に親しむ

同社が提案する「グリーンファースト ゼロ」は、モットーとして「庭と一体で自然に親しむ快適な暮らしでZEHを実現」を標榜する。これまでの「省エネ住宅」には、断熱効果アップのために窓を極限まで小さくしたり、建物をなるべく立方体に近づけたり、さらには規格品の太陽光パネルに屋根のスタイルを合わせたりなど、使う側にとっては少々我慢を強いる住宅が少なくなかった。

だが、「グリーンファースト ゼロ」では、こうした不満を極力解消、「住宅は敷地やライフスタイルにより、間取りや建物形状が決められるべき」という、本来の住宅建築のポリシーのもと、ZEHに挑んでいる。

このため、高性能の断熱材やLED照明の採用はもちろんのこと、窓をできるだけ大きくするため、断熱性が極めて高いアルゴン・ガス封入型のサッシを採用したり、屋根の形状に左右されない瓦型太陽電池（PV）を採用したりなど、アイデアをふんだんに投入。

また、「創エネ」部分では、PVに加え燃料電池（FC）の〝ダブル発電〟を採用、気象・天候による発電の不安定さを解消する他、これに蓄電池も加えた3電池方式で電力を賢く制御、余剰電力は電力会社に売電するなど光熱費の削減も図っている。

屋根に瓦型PVを敷き詰めた「グリーンファースト ゼロ」の戸建住宅

（写真協力：積水ハウス）